

## 第5回大分県道州制研究会の概要

### ◆道州制に移行した場合の県民にとってのメリット・デメリット等について

#### 全般的事項

##### 【現状認識】

##### ●中央集権体制、東京集中の問題

- 道州制に反対している団体もあるが、理由は、地域間格差がむしろ広がるということ懸念している。しかし、全国を見ると、大分もそうだが、多くの町村で、自分たちで村おこしをして合併しなくても財政的に自立している町や村がたくさんある。

従来の延長線上で国からの補助金に頼って、例えば箱物とか公共投資をしてきた町村は、どうしても上への依存心というものがまだまだ残っていることは否めない。

- 国からの税源移譲がなされないことによって、市町村が大変な状況になっている、本来の向こう10年間の合併する前の約束事が必ずしも守られていないのではないかと思われる。そうであれば今日のような状況はなかったのではないかと思う。

##### 【道州制導入の影響①（肯定的意見）】

##### ●地方のことは地方で決定する社会の実現

- 大分だけでは非常に不利で、現状では何も改善されない場合や、自分たちの地域をもっと良くしたいと思っても、大分だけでは無理な場合、九州でまとまれば、九州として、自分たちで決めて、自分たちの財源で色々なことをやっていけるのではないかということが道州制の最大のメリットでないか。

##### 【道州制導入の影響②（懸念）】

##### ●九州府の規模

- よく九州がまとまればオランダ一国と対抗できるということで、肯定的に引用する場合が多いが、それは反対で、ヨーロッパではオランダ一国では生きていけないから、EUになっているというところがある。ヨーロッパでは、オランダやベルギー規模では生きていけない。オランダ一国の規模に九州が匹敵しているからといって、九州で一つという訳にはいかないという側面がある。

##### ●地域間格差の拡大

- 高速交通体系について、ようやく県南にも光が当たってきたにもかかわらず、道州制が一気に進んだ場合、小さい地域の道路はいらないということで切り捨てられると、マイナス要因も発生する。

- 道州制といっても、北海道のように札幌集中という事例があることに鑑みても、道州制に乗り気にはなれない。

## 【道州制導入への影響③（その他）】

### ●道州制導入の時期

- 世界経済との兼ね合いの中で、本当の姿はどういう形が一番良いのか、どういう段階で、どういう時期に道州制を導入していくのが一番良いのかということをも十分検討して頂きたい。やみくもに突っ走るだけということには疑問がある。

### ●なぜ道州制なのか

- 九州地域戦略会議は答申を出したが、一方で全国町村会などは、道州制には反対ということをはっきりしている。これはなぜなのかと考えると、この報告書の中にビジョンとか、目指すべき方向性とか、望ましい形ということは書いてあるが、なぜ地方分権ではなくて道州制でなければならないのか、その根っこの部分が欠けている。もう一度、何らかの形で整理する必要がある。

### ●道州制へ移行した場合のビジョンの提示

- 道路網の整備など、色々な形で立ち後れており、宮崎県と同様に厳しい面がある。その中で発想していく時に、労働、福祉、国際分野など、恵まれている福岡、鹿児島、熊本だったら提示できるけれども、それが大分県民にどういうものが提示できるのかということ、具体的な夢などをどの程度提示できるのかということが大事である。
- 大分県の中でも光と陰の部分があることを考えると、道州制にとって一番厳しい立場に置かれている大分県民に夢と希望と具体的な目標を提示できれば、道州制は非常にメリットがあると思われるが、そうでないならば非常に厳しいと感じる。

## 【州都】

### ●メリット・デメリット

- 州都となるメリットは、人口が集まることで経済的発展が期待できる。また、例えば大分が九州全体の中心となるので、政治・経済面でイニシアチブがとれるということが挙げられる。  
逆にデメリットは、大分固有の文化が薄れる、中央から資本が流れ込んで地域経済を圧迫する、また、交通渋滞、治安の悪化、水の問題、環境汚染の問題など、必ずしもメリットばかりではないということも認識しておかなければならない。

### ●全体のバランス

- EUの本部がベルギーにあるのは、一つはベネルクス3国からヨーロッパの統合が始まったという歴史的由来がある。また、ヨーロッパの大国の張り合いで、ヨーロッパ内の大国に置くことはどこかの大国が反対するということがあって、それで非常にバランス良くなっている。九州道が出来る時もそういうバランスや知恵が働くと非常に結構である。

## 【道州制議論への意見、本研究会の進め方への意見】

### ●「九州」という表現の取扱

- 色々な説明の中に「九州」という表現が何度も出てくる。各県で条件や状況が違ってくる

もかかわらず、九州というまとめ方を自然にしすぎているので、「九州各県」という表現を使っていたきたい。九州という一括りで説明をされると、九州が一つにまとまっているという誤解を受ける。

## **交通・社会資本分野**

### **【現状認識】**

#### **●交通体系**

- 交通に関しては、大切な要素として「循環」と「速さ」と「量」がある。大分の交通機関がそのうちのどれを満たしているかと言うと、全部満たしてない。大分はものすごく時代遅れで、ほど遠い状況にある。
  
- 九州は地続きという感覚で、九州という言葉が簡単に使っているが、実際の九州は、隣の県の宮崎は遠いし、鹿児島に至ってはさらに遠い。

### **【道州制の夢・目的】**

#### **●社会インフラの整備への期待**

- 道州制になっても車での移動が非常に重要であり、三カ所ぐらい九州のセンターになるような所にジャンクションを設け、そこから放射線状に高速ネットワークのようなものが出来れば、高度の医療センターをどこかに作ることや各地で作った産業、農林水産業などの製品といった品々を安く速く輸送することが可能となる。
  
- 交通ネットワークがしっかりしていれば、特色ある高度で専門的なこれからの暮らしに役立つような学部、大学をまとめても、そこに住まずに通うことが可能となり、若い人たちの移動が少なくて済む。

### **【道州制導入の影響①（肯定的意見）】**

#### **●人材の育成・確保**

- 子供たちの勉強したいという気持ちに応えるために、九州管内に少なくとも3つぐらいジャンクションを作り、子供たちを通わせたり、夢を一步でも実現に近づけてもらうためにも道州制の導入は肯定的に考えたい。

### **【必要な環境整備、必要な対策】**

#### **●社会インフラの整備**

- 道州制実現のための基礎的な条件で、交通インフラの確立は前提条件である。  
道州制が出来たら交通インフラが進むというのではなくて、道州制になる前に前提条件としてある程度交通インフラの整備がなされないと、例えば宮崎はどうなるのか。州都がどこになるとほぼ同じような条件で、九州の何処に居てもそう不便を感じなくて移動が出来るということが道州制の前提でないといけない。
  
- 道州制が出来たら交通インフラが出来るというのではなく、道州制の前提として一定

程度の交通インフラの拡充、高速道路、JRの複線化などがある程度進まない、実際問題として道州制の実現は尚早と言わざるを得ない。道州制を実現するためにも、九州全体で見て平均的に交通インフラの整備が必要である。

- 東九州自動車道は、道州制になってから作るということにはならない。  
道路というのは血管と同じで循環型にしないと効果が上がらない。そういう意味では東九州自動車道は、議論の大前提ということで進めないといけないし、循環型ということであれば、鳥栖だけではなくて、他の所にも結節点を作らないと不便である。

## 経済・労働・国際分野

### 【現状認識】

#### ●労働力の育成・確保

- 担い手が育つ、確保できるということは、農林水産業に就いた時に生活が出来る、生計が保てるということが根本になれば誰もその産業に着業しないし、まずもって生活できることが基本である。
- 道州制であろうと都道府県制であろうと、交通インフラの拡充、高速道路は必要である。例えば、日田に企業が来るのは高速道路があるからで、竹田と違うということがあ  
る。交通インフラは、企業進出してもらい、働く場所の確保のために重要である。

### 【必要な環境整備、必要な対策】

#### ●観光分野の充実

- 各県が道州制になって、一番大事なことは交通インフラがどうなるかということである。現在でも九州の中で大分の交通インフラは最悪である。観光の面からも、大分の場合は、周遊性、回遊性というものが全くない。大分から宮崎、熊本へ行くにもなかなか厳しい。遅れている所を良くするなら良いが、さらに一極集中のような形になると観光面では非常に悪くなる。
- 九州の中で、観光は非常に大きなウェイトを占めているので、特に大分の場合には、観光面でのとらえ方というものが大事になってくる。そのためにも、道路のインフラということが一番申し上げたい。そして、観光という部門から光を当てることが良い。
- 東アジアから九州全体に観光の誘客をした場合に、交通インフラの面もあるので、別府、大分県は減ると思われる。九州としたら、観光で増えるかもしれないが、大分県としては九州の中で埋没してしまうおそれがある。
- 九州の観光の魅力を維持して上げていくためには、大分の中でも周辺地域に人が住み続けて活性化しなければ、九州も良くなりえないし、大分も良くなりえない。  
道州制になったら、不便になると思われる周辺地域に住む人に一番先にスポットを当て、そういう人たちが道州制になったらメリットになるということにならない限り、観

光面についてはメリットがない。

### ●九州が一つとなりアジアとの交流を目指す

- アジアとの交流を今後目指していくためには、経済面に限らず観光、文化、学術、教育、福祉など色々な面で九州各県が協力して対応できるような広域的な交流の必要性がある。アジアに近いという九州のポテンシャルを活かして、各県ばらばらではなくまとまる必要がある。例えば、九州の自治州ができた場合には、外交面、あるいは税制、貿易など色々な面で、アジア各国と対等につきあえるように出来れば良い。

### ●地産地消の重要性

- 食物を、農産物を外に持って行くことも大事であるが、地産地消で地域で出来たものを正當に評価をして、生産者からきちんとした値段で買って地域で消費するということが、輸送しないという意味からも大事であり、地域のを育てていくという意味でも、生産者のためにも、きちんと評価をつけて地域の中で消費をしていくことが非常に大事である。

### ●九州地域での産業の平準化

- 労働で言うと、道州制にして、産業も労働も経済もうまくいくのであれば、今自分の住んでいる所で働けることが一番良い。道州制になるのであれば、産業をうまく各地域に配置し、平準化できるかどうかである。例えば、福岡は人口に応じてこれぐらいの産業を配置する、大分はこれぐらい配置するなど。

### ●豊かな地域づくり

- 日田に小鹿田焼があるが、その地域は、豊かな感じがする。道州制も、やりようによっては田舎も豊かになりうるのではないかと思う。どういう形にすると地方が豊かになるのかという考え方も、道州制を考える時の一つの観点ではないかと思う。

### 【道州制導入への影響③（その他）】

#### ●道州制のイメージ

- 道州制のイメージ例に、九州ブランドとして「九州豚肉」、「九州サバ」がある。大分県の「関あじ」、「関さば」は他の産地の数倍もするのに、「九州サバ」というブランドになりようがない。認識不足である。

#### ●役割分担

- 大分のように杉などの人工樹林が多くの面積を占めている県において、森林業は将来どうやっていくか。ある意味では循環型であり、川や海など環境問題も含めると大変大きな問題がある。道州制で、経済とは別に一つの視点として、この森林業をどうやって位置づけるかを大きな課題として置くべきである。

## ◆研究会報告書の取りまとめについて

### ●取りまとめの方向

- 当研究会は、道州制導入そのものについては賛否両論の状況であるため、何らかの方向付けをするというよりも、研究会で出た議論を県民にわかりやすく整理するという形でまとめてはどうか。
  - 報告書をまとめるにあたって、記述すべき事項としては、次のような項目が考えられるのではないかと。
    - ① 前提として考えておくべきこと
      - ・インフラ整備の問題
      - ・受け皿としての市町村の姿の問題
      - ・一極集中是正の議論と州都のあり方の問題
    - ② 道州制における財源や権限の姿
    - ③ 道州制に移行した場合のメリット（それを活かすためにどうするか）
    - ④ 道州制に移行した場合のデメリット（それををなくすためにはどうするか）
- など

### ●州都の取扱

- 州都の問題については、触れることとし、①福岡以外とする、②県庁所在地は外す、③EUの本部のあり方に学ぶ、といった触れ方など、州都の件がこの研究会で出て、それについてはこのような意見があつて、一定の方向で議論されたといったことが何らかの形で分かるようにしてはどうか。